

産地生産基盤パワーアップ事業評価書

都道府県名	事業実施地区数 (ア)	評価対象外地区数 (イ)	評価対象地区数 (ア-イ)	成果目標の平均達成率 ※	評価対象地区数のうち、都道府県が地域協議会へ改善指導を必要とした地区数	地方農政局等から都道府県計画の改善指導の必要の有無	【参考】評価対象地区数のうち、達成率80未満の地区数	都道府県による総合所見	地方農政局等による総合所見
鹿児島県	33	19	14	66.8	6	有	5	<p>【県全体】 令和4年度を目標年度としている14計画のうち8計画は目標を達成し、6計画は目標を達成することができなかった。 目標未達成となった6計画を策定した5地域協議会に対しては、目標達成に向けて、関係機関・団体と連携して指導を行っていく。</p> <p>1 収益性向上対策 (生産コストの10%以上の削減) 野菜1計画は、ヒートポンプ等をリース導入した結果、重油使用量の削減は図られたが、電気使用料や生産資材の価格高騰により、目標を達成することができなかった。</p> <p>(販売額または所得額の10%以上の増加) 野菜2計画、茶1計画は、管理機等のリース導入により、販売額が増加し、計画どおり10%以上増加することができ、目標達成となった。 野菜4計画、茶1計画は、集出荷貯蔵施設等の整備や管理機等をリース導入したが、異常気象等の影響による生育不良や新型コロナウイルス感染症等の影響による販売先の需要低迷等により、計画どおりの販売額を確保できなかったことから、目標を達成することができなかった。</p> <p>(契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること) 水稲1計画、茶1計画は、乾燥調製施設・荒茶加工施設等の整備により、計画どおり契約栽培の割合を増加させることができ、目標達成となった。</p> <p>(農産物輸出の取組) 野菜1計画は、集出荷貯蔵施設を整備した結果、キャベツの鮮度保持や安定的な出荷が図られ、目標達成となった。</p> <p>(労働生産性の10%以上の向上) 甘藷2計画は、ドローン等の導入により、労働時間の削減が図られ、計画どおり労働生産性が向上し、目標達成となった。</p>	<p>県の成果目標平均達成率は、国が達成と判断する90%に対し66.8%であり、目標は達成されていない。 このため、農政局から県に対し、成果目標の達成に向け要因分析及び改善措置の提出を求めるとともに、未達成の地域協議会及び取組主体に対しては、県担当者による指導を行うなど、県による主体的な取組を指導する。 なお、鹿児島県が改善措置を必要とした地区(達成率90%未満)の概要は、6地区である。</p> <p>(参考: 成果目標未達成地区の概要) 【野菜】2地区 令和4年度の評価対象の4地区のうち、目標が達成している地区は2地区、未達成が2地区となっている。生産コストの削減の目標が未達成となった1地区(ピーマン)の主な要因は、電気代や資材の価格高騰、販売額の増加の目標が未達成となった1地区(いちご)の主な要因は、管理不足等による単収の減少や資材高騰により面積拡大ができなかったことによる未達成である。</p> <p>【ばれいしょ】2地区 令和4年度の評価対象の2地区のうち、目標が達成している地区は1地区、未達成が1地区となっている。10a当たり販売額の増加の目標が未達成となった1地区の主な要因は、12月、1月の寒波、強風の影響により単収が減少したことによる未達成である。</p> <p>【茶】1地区 茶価の低迷と燃料・肥料のコスト高により採算割れが懸念されたため、今後の経営安定に向けた収益性の高い品種や需要の高い有機栽培に対応できる品種への改植に取り組んだため、未達成となった。</p>